

＝基幹語という秘密の文字列一つを覚えておくだけで、全てのパスワードが管理でき、IE11を使っの自動ログインが可能です＝

【 === 動かし方 === 】

■本アプリの動作環境

- ・本アプリは「.NET Framework 4.5以降のバージョン」がインストールされているWindows用のアプリです。Windows8/8.1/10には標準でプリインストールされていますから、動かない場合は.NET(ドット・ネット)の格納場所「コントロールパネル」>「プログラムと機能」>「機能の有効化・無効化」をみて、4.5以降が有効(チェックオン)になっていることを確認して下さい。
- ・Windows Vista(ServicePack2)、Windows7(ServicePack1)の場合はインストール済でなければMicrosoftサイトからのインストールが必要です。(例) .NET4.5のDLサイト <https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=30653>
- ・本アプリの自動ログイン機能はインターネットエクスプローラーIE11を使って確認しています。しかしVistaSP2とWin8のIE最終バージョンは夫々IE9とIE10ですので、動作は未確認です。Win8の場合、8.1にupgradeすればIE11がインストールできます。

■本アプリの起動と終了

- (1) MyLOGIN.exeとml.Flowpic_ml.jpgを適当なフォルダー[仮称: MyLOGINフォルダー]に入れてクリックすれば起動します。起動に際してWindows Defenderが発行元不明「害を及ぼす可能性のあるソフト」「PCに問題が起こる可能性」等のメッセージを出す場合がありますが、詳細情報等をクリックして「実行する」を表示させ、進めてもらって問題ありません。警告をださないようにする方法もネットに載っています。同様に過度に厳密なセキュリティソフト(例えばノートン)をお使いの場合、「本アプリが無名で信頼度が低い」などの理由で「実行拒否」される場合があります。その場合もセキュリティソフト自身の中にある検疫回復や信頼するなどの機能を使って拒否回避をしてください。
- (2) 初回だけ名前(ニックネーム)の入力と免責同意事項があります。同意すると、一番大切な基幹語の入力を求められます。基幹語(半角英数小文字:5文字～10文字程度)は全てのパスワードに含まれる基本的な文字列です。以後の中心的な役割を果たすものですから秘密且つ絶対忘れない文字列を熟慮の上入力設定してください。一旦決めた基幹語の変更はできません。
- (3) 毎回起動時には初回設定の基幹語入力を求められます。その後ホーム画面が表示され、全機能が使えるようになります。
- (4) ホーム画面の「終了」ボタンクリックで本アプリは終了します。
- (5) バックアップは[MyLOGINフォルダー]の全コピーでOKです。このコピーは上記動作環境がOKなら別PCでも動きます。
- (6) 本アプリが不要になった場合は[MyLOGINフォルダー]ごと削除してください。

■免責と注意

- ・本アプリはVisual Studio2017(C#)で開発されたPCクライアント側で動作するローカル且つシンプルなアプリです。レジストリーやインターネット通信、OSを直接いじることにはしておりませんので、本アプリが何らかの原因となってPCに悪影響や損害等を与えることはないと考えておりますが、万が一そうなった場合でも、その責は負いませんのでご承知おき下さい。
- ・本アプリはPCの内蔵時計を適宜利用しますので、凡その正確な日時設定がなされているようにしてください。特に内蔵電池切れによる時計停止は誤動作の原因となる可能性がありますのでご留意ください。

■正規版への移行

本アプリは無料の有期版です。全機能が使えますが、使用日数50日あるいは起動回数50回の早い方での制限が掛かっています。残日数・残回数はホーム画面の「有効期間」に表示されます。制限なしの正規版へ移行するには MyUnlimit.txt というライセンスキー・ファイルが必要です。それをMyLOGIN.exeと同じフォルダーに入れて起動すれば、以後、正規版に切り替わります。有期版でのユーザー・データはそのまま継承されます。ライセンスキー・ファイルの入手例: Vector(ベクター)サイトで「基幹語式パスワード手帳MyLOGIN」をシェアレジ商品としてご購入(500円)頂くと、このファイルの受け取りURLが書かれたメールが送られてきますので、それに従ってダウンロードすれば入手することができます。

【 === 使い方 === 】

■基幹語式パスワードの考え方

本アプリでは、個々のパスワードは常に2つの文字列の組み合わせで作られます。一つは【基幹語(5文字～25文字max)】、もう一つは【分枝語(1文字～25文字)】、組み合わせ方法を【生成モード(8種類)】と呼びます。例えば、基幹語として“abcde”、分枝語として“1234567”、生成モードを基幹語+逆分枝語とすれば、この時のパスワードは“abcde7654321”になります。ここで、基幹語を一つに固定して、分枝語と生成モードを変えてゆくことにすれば、パスワードは無限に作り出せることがわかります。つまり、基幹語は樹の幹、分枝語は枝、生成モードを枝振りと考えれば、一本の樹に数多くのパスワードがぶら下がっている形がイメージできると思います。基幹語式パスワードとはこのような考え方に立ったパスワード管理の方法です。基幹語は本人が絶対に忘れない、他人にも悟られないような秘密の文字列として決めて頂きますが、本アプリ内には記録保存されません。もちろんパスワードそのものも記録保存されません。その代わりに、分枝語と生成モードの方が記録保存され、個々のパスワードは毎回、基幹語との組み合わせで自動生成・管理されていきます。個々のパスワードをPC内に記録もせず、自分が覚えておく必要もない、これが基幹語式の大きな特徴です。パスワード管理の煩わしさから解放されます。

パスワード長は基幹語+分枝語の長さ(max50文字)になりますから、長さ制限のサイトにも対応できるように基幹語の長さは5文字～10文字程度が適当です。また、大文字、全角、記号入りのパスワードを拒否するサイトもありますので基幹語は半角英数小文字だけで作成してください。尚、一旦決めた基幹語の変更はできません。

基幹語のもう一つの役割は、本アプリの起動キーにもなっているということです。毎回のアプリ起動には基幹語入力を必須としましたので、基幹語を知らない他人がアプリとデータを手に入れても起動することができないようになっています。

■既存パスワードの取り扱い

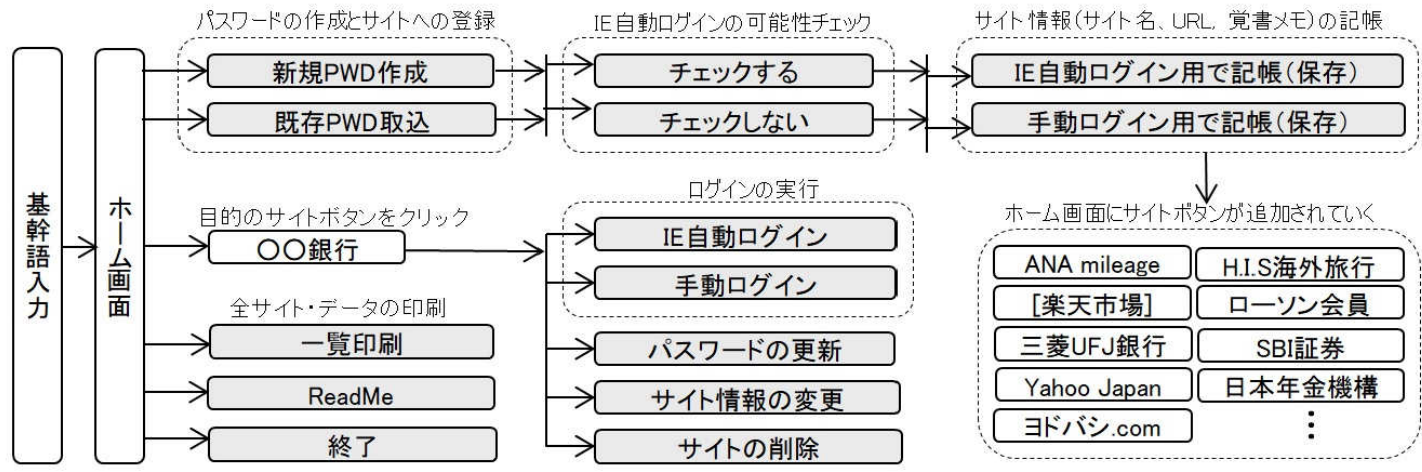
既に使っているパスワードについては、本アプリが自動で疑似分枝語を作り出すことにより、基幹語式パスワードの形でアプリに取り込みますから、従来通り使っていくことができます。

■生成モード(8種類) カッコ内は 基幹語= abcde、分枝語= 1234567 とした時の自動生成されるパスワードの形です。

- Mode1 : 基幹語+分枝語(abcde1234567) Mode2 : 基幹語+逆順分枝語(abcde7654321)
- Mode3 : 分枝語+基幹語(1234567abcde) Mode4 : 分枝語+逆順基幹語(1234567edcba)
- Mode5 : 基幹語に分枝語を先頭から交互に(1a2b3c4d5e67) Mode6 : 基幹語に分枝語を末尾から交互に(76a5b4c3d2e1)
- Mode7 : 逆順基幹語に逆順分枝語を先頭から交互に(7e6d5c4b3a21)
- Mode8 : 逆順基幹語に逆順分枝語を末尾から交互に(12e3d4c5b6a7)
- Mode0 : 基幹語と疑似分枝語から既存パスワードを自動生成するモード。(システム専用。ユーザー選択不可)

■本アプリの操作と機能

起動時に基幹語を入力するとホーム画面が表示され、そこから色々な機能を使っていくことができます。



[1] パスワードの作成とサイトへの登録

◆新規会員登録(アカウント登録)の手順はサイトによって千差万別なので、ここでは標準的な手順で説明します。まず目的サイトのログイン・ページを開き、ログイン時に必要なユーザーIDsがどれとどれになるのか確認します。通常、IDは一つですが、支店番号の入力が必要なケースもあるので、それらは第2、第3のユーザーIDと考えます。IDは自分で決めるものと新規登録手続き中にサイト側が発行する仮IDもあります。

IDsが決まったら、ホーム画面の「新規PWD作成」ボタンを押して「新規パスワードの作成」画面に記入します。ユーザーIDはmax50文字、3個まで設定可能で、使う順番は任意です。同時に目的サイトの新規登録ページを開き、同じIDs等必要な情報を入力して登録手続きを進めます。

パスワードを決める段に来たら、生成モードボタンでモード選択をし、分枝語を入力して新パスワードボタンを押し、基幹語式に則ったパスワードを作成します。この操作は何回でもやり直せます。自分の思うようなパスワードが作成できたら、それを新規登録中のサイト側パスワード入力欄に転記(コピー)して有効受理されるかどうかを確認します。OKであればこのIDsとパスワードのセットがログイン・データになり、サイト側の登録手続きは完了しますから、「サイト側での新規登録完了」ボタンを押して次の「IE自動ログイン可能性のチェック」に進みます。

既に登録済などの理由でNGだった場合は生成モードと分枝語を選択し直し、サイトに受理されるパスワードになるまで繰り返します。

仮IDで新規登録した後、自分なりのIDに変更しておきたい場合は「サイト側での新規登録完了」を押さずに、サイト側でIDsを変更し直し、「新規パスワードの作成」画面にも記入し直して「サイト側での新規登録完了」を押して次へ進んでください。尚、IDsはあとでサイト情報タブでも変更可能です。

◆既に使用中のIDsとパスワードの場合は「既存PWD取込」ボタンを押します。IDsとパスワードを入力して「次に進みます」ボタンを押すと内部的に疑似分枝語 (Mode0) が作られ、基幹語式に則った形で既存パスワードを取り扱うことができるようになります。既に使用しているパスワードはサイト側での有効確認は不要なので、そのまま次の「IE自動ログインの可能性チェック」に進みます。

[2] IE自動ログイン可能性のチェック

◆チェックしない: IE自動ログインを使わない、あるいはできないサイトではここをチェックして手動記帳フォームへ進みます。以後、このサイトでのログインはキー入力などの手作業で行う「手動ログイン」となります。ブラウザが関与しないI/O機器、ソフトウェア、ネットワーク型などへのログイン、あるいはログイン時にIE以外のブラウザを使う場合も手動ログインになりますのでこの「チェックしない」を選択して下さい。

◆チェック実行: IEで目的サイトのログイン・ページを開きます (通常自分がログインに使うページです。新規登録のページとは異なります。)。ログイン中なら一旦ログアウトして下さい。また同時に別のログイン・ページ等を開かないでください。開いたログイン・ページの入力欄に対応したIDsとパスワードを転記 (コピー) 入力します。「規約に同意」等のチェック (事前必須操作と呼びます) は無視しても構いません。

転記が終わったら「チェック実行」を押します。表示が「Waiting・・・」に切り替わった後、10秒以内にサイト側ログインボタンを一度だけマウスダウンして下さい (クリックしても良いですがログインしてしまったら一旦ログアウトしてください)。IE自動記帳フォームに移行すれば可能性OKです。注意メッセージが出たら修正して「チェック実行」をやり直すことができます。「Waiting・・・」表示中にブラウザの別の部分をマウスで触ったりブラウザを閉じたりすると、IE自動記帳フォームに移行しても内部的には誤認識していますのでやり直しが必要になります。うまくいかない場合や止める場合は「チェックしない」を押して手動記帳フォームに進みます。一般に、IDs、パスワード、ログインボタンの3点セットが1ページ内に収まっていればIE自動ログインの可能性は高いです。

可能性OKでIE自動ログイン記帳フォームが表示されたら今開いているIEを閉じ、「起動確認」をチェックして完全に同じログイン・ページが開くかどうかを確認してください。エラーや異なるログイン・ページが出たら自動ログインはうまくいきません。これはこのURLへ直接飛ぶことが不正アクセスと見なされる作りになっているからです。対処としてはURLを親元 (トップページ) のものに書き換えておきます。＜A＞IE自動ログイン利用時には親元ページからログイン・ページを開き、「IE起動しない」で自動ログインしていくことになります (例: SonyID、日経ID)。サイトの途中でログイン・ページが散見されるShopping storeや、「お客様登録情報」や「Myページ」のような子や孫の位置づけのログイン・ページでも同様の状況が発生する可能性があります。

- ① IDs欄とパスワード欄/ログインボタンが2ページに分離していてもURLが同じなら実質1ページと同じなので、まずIDs欄に入力後、次のパスワード欄に進み、入力した上で「チェック実行」以下をするとOKになる場合があります (例: Yahoo! JAPAN)。URLが異なっているとうまくいきません。
- ② 一つのサイト内に異なる作りのログイン・ページがある場合は夫々別物として記帳していく必要があります。
- ③ POP-UP型ページ (例: ホテルスタ) やページ内制御がキー入力で変化してしまったり、JavaScriptで外部からのロボット操作を拒否するような作りのページになっている場合はIE自動ログインの可能性は困難です。
- ④ サイトの変更で自動ログインが使えなくなった場合には、手動ログインで使うか、新規に可能性をやり直して下さい。

[3] サイト情報の記帳

IE自動ログイン/手動ログインいずれの記帳フォームでも、サイト名/色、ログイン・ページのURL、ログインにあたっての覚書メモなどを記入し、このサイトに関するデータを一括記帳 (データ保存) します。

◆サイト名はmax30文字まで。日本語全角文字の場合は頭の15文字程度がホーム画面にサイトボタンとして表示されます。IE自動ログイン記帳ではサイト名欄にその時のページ・タイトル (タブ名) が取得されているのでサイトボタン名に相応しいように適宜修正してください。但しサイト名は内部ファイル名としても使用されるのでファイル名禁止の9記号 ¥ < > " : ? | * / は使えません。また、全角同士、半角同士の大文字小文字は同じと見なされます。「半角の&」はHTMLのエスケープシーケンスなので正しく表示されません。サイト名の色指定は分類などに活用できます。

◆URLは直接ログイン・ページを起動するために使用されます。IE自動ログイン記帳ではログイン・ページのURLが自動取得されています。手動ログイン記帳の場合はログイン・ページのURLを転記 (コピー) しておけば便利です。そのURLで正しくページを開くことができるかどうかは「起動確認」をチェックしてクリック確認することができます。

◆覚書メモはmax80文字までの自由なメモ欄です。ログインボタンをクリックする前の事前必須操作 (「規約に同意」、図柄合わせ、英数字読み取りなど) や合言葉、ヒント、分枝語への補足、サイトで使うクレジット番号等々、自由に多目的に書いて置くことができます。ログイン時にはまず覚書メモを見て必要な作業を行ってからログイン実行をしていくことになります。

◆記帳できるサイト数はmax200サイトです。

(※) 基幹語、パスワードはデータとして記帳 (保存) されないのでファイルが盗まれたとしてもパスワードを知られることはありません。IDs、生成モード、分枝語、覚書メモは記帳されますが、IDs以外の項目は暗号変換されて記録されるので、データファイルを見ただけでは分からないようになっています。更に、使用中に隣で覗かれて困りそうな基幹語やパスワード、覚書メモ欄はmasking On/Offができるようになっています。

[4] ホーム画面のサイトボタン表示と実行

記帳されている全サイトのボタンがホーム画面にNewToTopで配置されます。

「サイト移動」にチェックを入れ、移動させたいボタンAをクリックし、次に別のボタンBをクリックすればAがBの上に移動します。

「文字サイズ」にチェックを入れると大きめの文字になります。

サイトボタンをクリックすると5つの機能タブ画面が表示されます。複数個のユーザーIDは”～”で連結表示されます。手動ログイン記帳をしたサイトではIE自動ログインのタブは開きません。

＜A＞IE自動ログイン ＜B＞手動ログイン ＜C＞パスワード更新 ＜D＞サイト情報変更 ＜E＞サイト削除

＜A＞ IE自動ログイン

このタブで「実行する」を押すとIEがURLで示されているログイン・ページを自動的に開き、IDsとパスワードを転送してログイン（サインイン）ボタンをクリックします。ページ表示が始まってから15秒以内に読込完了しないとTimeOutになるので再度実行してみてください。事前必須操作（覚書メモ記述等）が必要な場合は、まず下段URLでログイン・ページを開き、絵柄合わせなどの事前操作を済ませ、「IE起動しない」をチェックして「実行する」を行えば今開いているページに対してログインを実行します。「実行する」の動作は、可能性チェック時に認識したIDs欄やパスワード欄を見つけて、上書きの形でデータ転送し、ログインボタンを見つけてクリックする事です。これは何回行ってもサイト側への悪影響はなく大丈夫です。IE自動ログインがうまくいかなかった場合は手動ログインで対処してください。その旨を覚書メモに記しておくとき次を使うときに間誤付かないで済みます。

- ① データ転送しか受け付けられないサイトでは自分でログインボタンを押してください(例:三菱UFJ銀行)。
- ② キー入力がゼロだとログインボタンのクリックを受け付けられないサイトがあります。これを回避するには、「実行」後、ダミーの文字を入力・削除してからログインボタンを押すとうまくいきます。あるいは先に下段のURLでページを開き、適当にダミー入力してから「IE起動しない」で「実行」してもうまくいきます(例:アフラック契約専用)。
- ③ ログイン・ページが分離されていてもURLが同じなら、1ページ目にIDs欄がなくても、「実行する」のあと次へ進むとパスワード欄にも既に入力がなされている場合が多く、そのままログインボタンを押せば完了できます(例:Yahoo!JAPAN)。
- ④ 自動ログイン実行後、再度、本人確認などでIDs表示済のパスワード入力画面がでたら「IE起動しない」で実行すればOK場合があります(例:HotPepperグルメ)。「IE起動しない」での実行は何度行っても大丈夫です。

＜B＞ 手動ログイン

ラジオボタンで指定したブラウザを使って、URL (<http://>または<https://>) のログイン・ページを開くことができます。手動でIDsやパスワードを転記(コピー)し、ログイン(サインイン)ボタンを押してログインを完了します。このタブはログインに必要な諸データを表示するだけのパスワード台帳あるいは電子メモ帳のようなものですから、I/O機器やソフトウェアへのパスワード、ネットワーク型ログイン、IE自動ログインがうまくいかなかった場合など、どのようなログイン場面においても使うことができます。その意味では原始的ではありますが、ログインの最終的な解決手段の位置づけになっています。

＜C＞ パスワード更新

金融関係の企業サイトを始めとしてパスワードの更新を求められる場合が多いと思いますが、このタブでは生成モードと分枝語を設定し直してパスワードを更新していくことができます。現行パスワードや「更新履歴」ボタンでそのサイトにおける過去の生成モードと分枝語が表示されますので、一度使ったパスワードとバッティングしないように更新パスワードを決めていくことができます。更新パスワード候補を作成したら、新規PWD作成時と同じようにサイトの登録更新ページなどで更新パスワードが有効受理されることを確認します。ダメな場合は別の候補を選び直します。うまくいったら「サイト側で更新PWD登録が完了したら押してください」ボタンを押して記帳データを更新します。パスワードの更新は何度でも行なうことができます。

＜D＞ サイト情報の変更

全てのサイト情報(IDs、サイト名/色指定、ログイン・ページのURL、覚書メモ)の変更ができます。IDsの変更にはそれに先立ってサイト側でOKであるのかどうかの確認をしてください。サイト名では全角同士、半角同士の大文字小文字は同じと見なされ、またファイル禁止文字9種は使えませんのでご注意ください。IE自動ログインで記帳を行ったサイトでは、不用意にURLを変更するとIE自動ログインができなくなるので注意して下さい。

＜E＞ サイト情報の削除

不要になったサイト、使えなくなったサイトのサイト・データを全て削除します。削除したサイトを元に戻すことはできません。

[5] 一覧印刷

全サイト・データの一覧をパスワード無し・付きの2通りでA4横サイズに印刷(PDF化)することができます。基幹語は印刷されません。パスワード無し一覧でも、生成モードと分枝語からパスワード再現ができ安心です。但し、Mode0「既存PWD取込」は疑似分枝語なので分枝語欄に直接パスワードを印字します。この直接印字を避けたい場合は、パスワード更新で基幹語式に則った形に更新しておくことが推奨されます。パスワード付き一覧はズバリ便利ですが、盗まれたりしないように保管には十分注意を払ってください。一覧印刷を取っておくと、予期せぬPCクラッシュや故障発生時のバックアップとして役立ちます。

作者: kirino.kojirou@gmail.com